

東日本大震災救援募金のお願い

米、野菜など支援物資も募集中

第12次ボランティア

大まかな活動計画
 23日は、岩手・陸前高田など被災地視察
 24日は、ト汁の炊き出し、物資の届け他
 25日は、昼まで物資のお届け

日程 11月22日(木)夜発
 11月25日(日)夜着

救援募金 **391万円**

昨年3月からの総額
 ご協力に感謝します

今回お願いしたい救援物資
米、野菜、タオル、石けん、洗濯石けん、靴下、下着、ぬいぐるみ、オモチャなどです。
 衣類はご遠慮します。

第11次ボランティア会計報告 (単位円)

| | |
|--------------|---------|
| ニューズ印刷代 | 18,630 |
| ボランティア保険加入 | 1,400 |
| 米、野菜、自転車購入費 | 115,300 |
| 車借り上げ、高速・燃料費 | 65,990 |
| 費用合計 | 201,320 |

募金の残金は約10万円です。第12次ボランティアで活用します
 購入した物資概略：米100キロ、じゃがいも40キロ、人参30
 キロ、ピーマン27キロ、きゅうり200本。
 物資提供：米80キロ、じゃがいも30キロ、自転車、ミニピアノ、石
 鹸、タオル、オムツ、ぬいぐるみ等々、すべて現地に持ち込みました

港地区委員会 Tel 3455-0051

FAX 3455-0054

メール jcp_minato@ybb.ne.jp

港区議団 Tel 3578-2945

FAX 3578-2947

メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp

第11次ボランティアで活動した
 東松島市 宮戸島



募金、物資提供など、ご連絡いただければ
 お伺いします。整理の都合上11月18日まで受け付けます



⑤ 避難を呼びかけた南三陸町の被災庁舎
 カット・インシの水
 樽、石巻港へ



好評だった無料ミニバザー 宮戸小学校

日本共産党 第11次ボランティア 活動報告 9月20日～23日 5名参加

港地区委員会は、九月10日から13日まで石巻市の「日本共産党 震災・救援センター」へ第11次ボランティア 5名を派遣しました。



インシの水揚機



雨の中 物資の届け

今回は、二日間とも東松島で活動です。

二一日二時過ぎに石巻に到着。仮眠、朝食の後、石巻市内の被災視察をします。相変ならず、空き地が広がっています。

石巻漁港では、鯛や鱈の水揚げをしていて、前回七月よりも規模が拡大しています。水産加工場も新築されてきています。

八時に救援センターに到着し、東松島市赤井小学校の仮設はじつ場所へ向かいます。

今回、港区の方々から米を八〇キロ、石けんやタオル、おもちゃなどをおいいただきました。

救援費全から米、シヤカイ、ビール、キノコなどが大量に発送しました。

子ども用、大人用の自転車も一台ずつ提供を受け、自転車購入募金も七万円いただき新車三台を石巻で購入しました。くじ引きです。



親子のお母さん

二一日の赤井地区の仮設住宅でお渡ししました。写真のお母さんが、以前から自転

車が欲しかったと喜びます。東松島は、石巻市内と比べて訪問回数が少ないので、仮設住宅の方々喜んでくれます。

米、野菜が言はれる

仕事も家も無い状態ですから、野金を取り崩して生活しています。だから、救援物資が届くと、何日か取り崩さずに暮らせるとホッとできるのです。

九月二日は、東松島の宮戸郷入行きました(一面の地図参照)。宮戸小学校、貝浜、室浜の仮設三カ所で野蒜(のびる)からとらに海の架の端に出た所。海苔、カキの漁が盛んな地域で、有名な海水浴場も民宿もあつます。

また、物資を各家庭に届け、台わけて要望を聞き取る活動です。その後、無料バスですが、あつといつ間に物資がなくなりました。

自転車くじ引き盛り上がる

大人用、子ども用の自転車抽選会をやりました。熱気アップです。



大人用 自転車抽選

大人用は、「欲しい人あつまつてー」と呼びかけるので、二〇人以上手が上がります。さあーくじ引きです。緊張の中にも笑顔がはじけます。あなたのは、写真のお父さんです。二つ



伊養の石塔が建てられた。大川小学校

コリ。次に子ども用自転車を整地して、ライクを整理するところがあります。まだ、山は年もかかると思われまふ。また、山は抱いています(一面写真)。

纏けて貝浜、室浜の仮設住宅と回ります。民宿も数多くありますが、現在は数軒が再開しています。

「家族の人が流された」

要望聞き取りの中で、「海苔の漁をしていて、あと少しで漁が再開できる目処が立つてきた」などの嬉しい状況も聞きました。逆に、「主人と、代のおはあちゃんからは「主人と、息子と、孫を津波で流されてくじだ」と話している間に妻がつかまいます。聞いている私たちが、かける言葉が見つかりません。「大塚だつたね」としか言えませんでした。この地区では、すぐ上の小高い山に



くじ引き 緊張の一幕



お父さんが大判取り



「運動会」の看板か？

高台移転するところ、す。しかし、山の木を整理して、ライクを整理して、ライクを整えて・・・となる。三年も五年もかかると思われます。また、山はなにも手がつけられていません。



機倒しのまま

一三日は、南三陸、雄勝、女川と被災地を視察。瓦礫はかなひ片付いてきました。南三陸の防災センターに来るたびに、最後まで避難を呼びかけた女性職員のことか胸を打ちます(一面写真参照)。

大川小学校では、供養塔(石塔)が立っています。「会」とは運動会の看板でしよつが。

女川町立病院の上から撮影です。機倒しのじしはそのままです。全体として瓦礫は片付けられてきました。が、復興住宅、高台移転は、言葉が聞こえます。復興できるのが、長押しは一切立っていません。東北三県で復興住宅は一戸も出来ていないのです。震災からすでに一年が過ぎたま



子ども 自転車抽選



誰だっただ女十



津波はここまで来た。女川町立病院